

高木復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成28年4月23日(土) 於) 福島県福島市)

1. 発言要旨

本日は福島市において土湯温泉の復興に向けた取組を視察させていただきました。温泉街の熱源を利用したバイナリー発電を核として、温泉街全体を活性化させるまちづくりを進めております。また、温泉熱を活用して、好適環境水により養殖事業やミラクルフルーツを栽培し、これを活用した観光商品を開発するなど、6次化産業の創出に取り組んでいらっしゃいます。ミラクルフルーツを試食させていただきました。この実を食べると、苦みや酸味のある食べ物が、先ほども甘く感じるがありました。

視察を通じて感じたことは、土湯温泉では地熱エネルギーを利用して、新しい産品や体験ツアーを開発し、にぎわいを取り戻そうとしていらっしゃいます。新しい産業の芽が東北から次々と育っておりまして、地元の皆さんの東北観光復興への情熱を感じさせていただきました。震災によって存続の危機に直面していた温泉街が、復旧にとどまらず、復興への動きを加速させている姿に、新しい東北の創造への挑戦を実感させていただきました。また、風評被害に負けずに福島の現場で頑張る人たちにこたえられるよう、私も復興の加速に努力をしていきたいと思っております。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今、いろいろ感想もありましたけれども、今後の復興・創生期間に入り、熊本地震なんかもありましたけれども、改めて福島復興に向けて、今後どういうふうに取り組んでいくかお聞かせください。

(答) 震災から5年が経過し、集中復興期間から復興・創生期間に入りました。復興は順調に進んでいると思っておりますけれども、残念ながら福島ではまだまだこれからもしっかりと地元の方も頑張っており、また、私たちもしっかりと頑張っていかなければならない状況にあるという認識をいたしております。熊本でもあんな災害が起きましたけれども、もちろん人命救助、あるいはまた緊急的なインフラの復旧、あるいは避難の皆さん方への生活支援、そういったことも必要でありますので、政府一丸となって取り組んでおりますけれども、やはりまだまだ福島、東北の復興というものもしっかりやっていかなければならないという思いであります。

今日は、先ほども申し上げましたけれども、風評という向かい風があるわけでもありますけれども、そうした中であって、土湯温泉

の皆さん方が、正に復興を成し遂げようと、震災以前よりも活力ある温泉街をつくっていかうということで、いろいろな取組をやっていただいていることに大変感銘を受けましたし、しっかりとまた復興庁として支援をさせていただいて、この土湯温泉のみならず、福島全体がしっかりと復興するように取り組んでいきたいということを改めて感じさせていただきました。

(問) 関連で、いろいろ見られたと思いますけれども、特に印象に残ったものとかはございますか。

(答) バイナリー発電というのは初めて見ましたし、こういった発電の仕方、特に福島を新エネ、再エネの基地にということを経理もおっしゃっていますけれども、そのうちの一つだと思えますし、こうした取組を通じて、福島がそうした地域になることも期待しますし、また、全国にも発信して、いろいろなところでこういったようなものが活用されているということは、大変いいことだなと思いました。

それから、これまで温泉というと、普通、お客さんが旅館で温泉につかるという、そういったことが主だったと思いますけれども、改めてこの発電に限らず、いろいろな形で、温泉あるいは地熱、あるいはここは水も豊富でありますから、そういったものをしっかりと活用して、新しいまちづくり、温泉街づくり、観光地づくりに取り組んでいらっしゃるというところ、私、就任して半年以上たちますけれども、こういったところを視察させていただいたのは初めてでございまして、大変印象を受けた、これまで27、8回視察していますけれども、本当にこれまでと違うものを見せていただいたという、そういう感想を持っております。すばらしいものを見せていただきました。

(以 上)